



07

©製造業

細見工業株式会社

重要文化財、国宝の展示を支える 「ケースづくり」のオンリーワン企業！

国宝級のお宝を守る大切な
お仕事なんだね



顧客のニーズを聞き
徹底して応えていく

創業50年の節目を目前にひかえた細見工業株式会社。先代社長の創業時にはホーロー湯沸し器の筐体を作ることが生業だった。その後、船の科学館のディスプレイ制作を機にディスプレイ業へと軸足を大きく移す。「元々はディスプレイ業の中で金物を担当していました。主に博物館や美術館のミュージアムケースの金属部分の加工が得意でした。それが、ク

ライアントのオーダーに応えるうちに展示ケース全体を納めるようになりました」(代表取締役・細見大作氏) 一口にミュージアムケースといっても中に入れる展示物は形状も素材も異なる。壁面を飾るウォールケース、巻物などを展示する覗きケース、壺を魅せる独立ケースなど様々だ。「一品モノが中心で、全て受注生産。大手ディスプレイ会社からの仕事がほとんどで、口コミで学芸員の方から依頼される場合もあります」(細見氏)



国宝や重要文化財を展示することも多く、技術には定評がある



社名の看板は平面にペイントではなく、板から切り出した立体になっている



特許も多数取得している。技術力の高さも、同社の強みだ



オンリーワンの業績で
葛飾区から認定も

「過去には、『この扉をシューというパタッてるようにしたい』と擬音しか言わないお客さんがいました(笑)。言いたいことはわかるけど、具体的にはわからない。それでも力タチにしていくのがやりがいです」(細見氏)

細見工業の「顧客が満足する製品をカタチにする」というオンリーワンの業績が評価され、平成26年度には葛飾区優良工場に認定された。技術力で「葛飾ブランド」のイメージ向上に寄与し、地元・葛飾区に恩返しができたのだ。このような経緯から細見工業を知り、その魅力に気付いた求職者も多い。昨年春に新卒入社した山下龍一さんもその一人だ。「デザイン学科出身ですが、その原

点は物作りだと思っていました。様々な会社を調べるうち、細見工業を知り、この会社だと思いました」実際に会社を訪れてみて、物作りに密接に関われる環境にひかれ、さらに興味が沸いたという。「現在、営業推進部という部署で働いています。図面を見て、実際にディスプレイを作るために必要な材料を確認し、切断の指示書を作って技術者に依頼する仕事です。材料がなければ、外部から手配も行います。先々は図面を書いたり、現場での施工管理も担当したいですね」(山下さん) 現在、細見工業では会社を担う次世代の育成に力を入れている。「実際にカタチのあるものを作る仕事ですから、やりがいは大きいです。いろいろなことに挑戦できる会社だと思えますよ」(山下さん)

Corporate DATA

【設立】
1988年7月
(創業1969年)

【資本金】
1,000万円

【所在地】
◎本社
東京都葛飾区
小菅1-11-20

【事業内容】
ミュージアムケースや各種展示ケースの設計・制作・施工、スチール・ステンレスなど各種金属・板金の溶接など

【従業員数】
20名
(2016年2月時点)
※次世代を育成するために、昨年より新卒採用を開始。文系や理系を問わず、技術を身に付け活躍しています。

【URL】
<http://www.hosomikogyo.co.jp/>

経営陣に!

会社だけじゃなく、お客さんや地域も仲間です

当社で働く人材は、みな真面目で一生涯懸命です。彼らに伝えているのは、「私たちは生かされている」ということ。お客様も仲間であり、共に作りあげていくパートナーであると考えています。もちろん地域に対しても同じ。7年ほど前から、会社周辺の朝の掃き掃除を一人で行ったのですが、今では社員が率先してやってくれるようになりました。これも地域の一員として大切な役割だと思っています。



代表取締役
細見大作氏

